

小城市立岩松小学校
学校だより 第14号



岩松小だより

令和7年7月4日発行
発行者 校長 真子靖弘

「平和」について考える その②

7/1(火)、Meet を使った全校集会で校長講話を行いました。今回のテーマは「アンパンマンから平和を学ぶ」でした。今年は太平洋戦争終結から80年という節目の年であり、日本が他国と戦争や紛争がない状態が80年続いていることは大変素晴らしいことです。この平和が続くよう、**私たちが努力し続けなければならない**という思いを込めて、講話を行いました。



〈校長講話の要旨〉

- ・アンパンマンの作者である**やなせたかし**さんは、太平洋戦争に兵隊として参加し、飢えの苦しさや、戦争の評価が一変することを体験した。
- ・彼はその経験を通して、どんな時でも変わらない**絶対的な正義**について深く考え2つの結論にたどり着いた。
 - ①お腹がすいている人に食べ物をわけてあげること。
 - ②自分を犠牲にしても人を助けること。
- ・アンパンマンが自分の顔をちぎってパンをあげる行為は、**自分がちょっと大変な思いをしても、困っている人を助ける勇気が大切だ**ということを伝えている。
- ・アンパンマンのように、**自分ができるところで誰かを助けて、優しい気持ちを広げていこう。**



同時に、**平和とは、単に争いがないだけでなく、すべての人々の人権が尊重され、社会正義が実現されている状態であることも強調しました。**また、**平和は、国際的な問題だけでなく、私たちの日常生活の中にも存在すること**（困っている人に手を差し伸べたり、意見の違う人と話し合い理解し合ったりする）も伝えました。



これらが身近な平和を築くための大切な行動であることを、今後も機会あるごとに繰り返し伝えていきます。最後に、子どもの問いと感想を紹介します。

- ・自分もアンパンマンみたいに人のために何かしてきたいです。【6年】
- ・アンパンマンのように優しい心を持ちたいです。【5年】
- ・「平和」とは何だろうか？【4年】



・困っている人がいたら、自分のできることを考えて助けてあげたいです。【4年】



- ・日本は安全なのに、どうして戦争があるのだから？【3年】
- ・今日の話を聞いて平和って大事だなと思いました。【2年】
- ・どうして(太平洋)戦争があったのか？【2年】
- ・これから戦争がないようにしたい。【1年】

子どもたちの主体性と責任感

子どもたちの自律心と責任感において、目覚ましい進歩がありました。



6/25(水)の**古川教諭**の6年松組公開授業の日、**2年生から5年生までの子どもたちが驚くべき自律性を示しました。**教職員が授業を参観している間、子どもたちは主体的に課題に取り組み、早く終わると静かに読書をして過ごしていました。これは、**子どもたちが学習に対する認識を、受動的に教えられるものから、能動的に自分たちで取り組むものへと変化させていることを示しています。**

そして、6/27(金)の朝には、登校してきた**2年生の女の子が、途中で拾ったゴミでいっぱい**のビニール袋を持っていました。空き缶やその他のゴミを拾うという彼女の**純粋で献身的な行動は、本当に心を温かくするものでした。**



子どもたちが目覚ましく成長していることは明らかであり、彼らが育んでいる**主体性と市民としての責任感**は、非常に誇りに思うべきことです。

主体的な学びの広がり

6/25(水)、**古川教諭**による算数科の研究授業が行われました。この授業では、古川教諭の熱心な指導はもちろんのこと、6年生の子どもたちが、「**自分ごと**」として**主体的に学習に取り組む姿**が印象的でした。先生と子どもたちの間に築かれた**良好な関係性**の中で、**いきいきと学ぶ様子**は、参観していて大変喜ばしいものでした。講師の**廣瀬圭吾先生**(佐賀県教育センター)も絶賛されていました。

